

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)		-	-	-
		スーパー（店長）	単価の動き	・野菜の高騰が続いている影響を受けて、総菜などの売上が堅調になっている。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・野菜高騰の影響から全般的に価格がつけ上げられているが、販売量は落ちていない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・競合店出店で店舗数が増加しているなか客数が増加しており、コンビニ業界の景気が良くなっているのだと感じる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・11月に新型車発売があり、受注は前年比1割程度増で推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来月にかけて新型車発表が続き、来場者数は増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・10月まで国内の軽自動車販売は22か月連続で前年割れしている中、県下では8月以降前年比増が続いており、11月も上回る見込みである。
		その他飲食【ファーストフード】（経営者）	販売量の動き	・外食産業にとって11～12月の売上は期待できる。景気が上向きとは言い難いが、3か月前よりは数値的に改善している。
		旅行代理店（営業部長）	お客様の様子	・団体旅行（企業・官公庁等）の見積依頼や企画提案が前年と比べて増加傾向にあるが、店頭販売は横ばい、もしくは減少傾向にある。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・端末販売数は堅調に推移している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・週末に来客が集中している。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・計画の依頼が以前よりずいぶん増えてきた。
		商店街（代表者）	競争相手の様子	・人口が激減し過当競争が続いているなか、来春大型ショッピングモールが出店する。出店を認めた自治体に怒りを覚える。
		一般小売店【文具店】（経営者）	来客数の動き	・年末まで商店街はそこそこにぎわうが、当店への来店者数は芳しくなく、客足は伸びていない。
		一般小売店【生花】（経営者）	それ以外	・市場への入荷量は依然少ない。商店街へ新しい店が相次いで開店し、そこには客が入っているが、他の店舗にはほとんど入っていない。人通りも増えていない。
		一般小売店【酒】（販売担当）	販売量の動き	・数年前まではボジョレーヌーヴォーが解禁される11月は売上が伸びていたのに、景気を反映しているのか年々売上が減少し、今年はさっぱりだった。
		一般小売店【書籍】（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年比マイナスとなっているが、外商の大口売上の件数が増えてきている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・衣料品の不振が続き、高額品も低調に推移した。売上伸長を続けていた物産展も、やや苦戦した。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・青果物の高騰が続いているため、売上も来店客数も前月とほぼ同様に推移している。
		コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・季節商材の売上や、年末までの予約状況を見ると、良くも悪くもない。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・客数が前年を上回っているのは天候や気温によるもので、景気には直接関係ない。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・気温と天候に恵まれ、比較的単価の高い商品が動き、売上は前年を上回った。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前年に比べて来客数が圧倒的に少ない。単価も低く、景気が良くなっているとは思えない。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・暖冬だった前年より売上が5%程度増えているものの、景気が良くなっているとは感じられない。依然として消費者の財布のひもは固い。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・ゲームやおもちゃ等の販売は増えるも、主要商品の販売は鈍い。	
	その他小売【ショッピングセンター】（副支配人）	お客様の様子	・寒くなって冬物の購買意欲はあるが、早くもセール待ちになっている。	

	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・道後温泉の入込客数が伸びないのは、外国人客が少ないことにある。その原因は、松山空港の国際線が上海便だけになったからだろう。外国人客は高松空港へ流れている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・秋は遍路客が増えるので仕事はあるが、競合が多いため、売上は伸びていない。
	通信会社（社員）	販売量の動き	・新機種が発売されたが、前年の販売数に比べて反応は鈍い。
	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・新商品効果で販売好調であった前月と比べると20%減、3か月前とはほぼ横ばいであった。
	通信会社（企画）	販売量の動き	・客の引き合い、販売量共に先月とあまり変化はない。
	通信会社（支店長）	来客数の動き	・来客数に変化は見られない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・大型客船の入港で、商店街に乗船客が多く流れ込んだが飲食のみで、物販に関しては買いが非常に細かった。観光客も増えているものの同じ状況で、売上には結びついていない。
	商店街（事務局長）	販売量の動き	・LCCの増便や新規就航によりインパウンド客が通行量を押し上げ、人通りに盛況感が見られるものの、日本人の実売客数や単価は下落している。ほとんどの経営者から、この秋は特に厳しいと聞く。
	一般小売店〔乾物〕（店員）	来客数の動き	・駅前デパートの客が本当に少ない。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・報道によって客の動きが変わってしまう状況である。
	タクシー運転手	お客様の様子	・一日の客単価、回数等減っている。5年前と同じ状況になっている。
	競艇場（職員）	販売量の動き	・休催明けの久しぶりの開催であったにもかかわらず売上は伸びなかった。
	x コンビニ（店長）	来客数の動き	・来店客数、販売量共に改善の兆しが無く、不安を感じている。
企業 動向 関連 (四国)	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新商品が好調で前年比20%程度伸びており、利益も大幅にアップしている。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・気温が下がり、冬物商材の販売量が少しずつ増えてきている。
	食料品製造業（商品統括）	受注価格や販売価格の動き	・年末を迎え、高価格帯の商品の生産・出荷が順調である。
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・テレビCMの投稿を新たに検討する企業が増えてきた。イベント協賛などへの意欲も高い。
	農林水産業（職員）	取引先の様子	・卸売単価は例年と比べて高値基調が続いている。これは自然災害等による入荷量の減少によるもので、消費者の購買意欲が上向いているのではない。
	木材木製品製造業	受注価格や販売価格の動き	・持家新築着工数の伸び率と同じように業績も推移している。大きな山も無ければ谷になったとしても浅いと判断している。
	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注案件が少ない状況が続いている。
	電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量は若干減少傾向にある。エンドユーザーの実需に大きな変動要素は見当たらず、景気は変わらない。
	建設業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に若干増えたが、景気は変わらない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・28年度当初予算の公共事業の発注が進み、相当の手持ち量を抱えている。年度末にかけ、例年どおり順調に売上計上できると見込んでいる。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・民間工事が若干受注できたが、まだまだ足りない。
	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・安価な方向に進んでいる。
	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・足踏み状態であった一般消費財の取扱物量が11月中旬以降、上向きつつある。それでも、悪かった前年実績を下回っており、依然として景気低迷を強く感じている。荷主はまず、取引先のなかから運賃の安価な運送会社を選び、断られたら他の運送会社を利用する傾向にあり、遅い時間帯に急に輸送を押し付けられることもある。日によって取扱物量にバラつきが生じている。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・受注量の変動はほぼ無い。年末年始に向けて一時的に物量が増える程度であり、例年と変わらない。

	金融業（副支店長）	取引先の様子	・企業の資金需要動向は、運転資金、設備資金共に大きな変化は見られない。景気の停滞感を感じる。
	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・県外新店舗の販促広告は受注したが、多くの既存得意先の販促活動は停滞している。
	公認会計士	取引先の様子	・企業の決算、試算表を見ると、前年とほぼ変わらない。
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10～11月は海外取引が拡大して順調であるが、国内の地方の小売店は非常に厳しい状況である。一極集中で都市部は良いが、地方は大型量販店の安売りでデフレ状況が続いており、地方経済は疲弊している。
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内需要はおおむね堅調に推移するも、海外需要は減少している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・再生エネルギーの需要が下火になり、受注量が減少している。
	x	-	-
雇用 関連	-	-	-
(四国)	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣登録者が激減しており、就労になかなかつながらない。
	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・コールセンターの乱立により、テレマーケティング人材の不足感が大きい。
	職業安定所（職員）	それ以外	・10月の有効求人倍率は1.4倍で、5月以降上昇傾向にある。
	人材派遣会社（営業）	採用者数の動き	・人材不足が慢性的に続く状況にあり、これまでは即戦力の採用や効率化のための期間雇用者を確保していたが、今は人材育成志向と正規雇用の求人・採用へと徐々に移ってきている。
	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・下請企業、孫請企業の経営者の多くが、安定的な受注が今後も望めるかどうかをいつも心配しているという話を聞く。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・順調に推移していた求人数にやや陰りが見られる。
	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・中小企業の採用難が長期化しており、打開策も見い出せてはいない。求人広告を載せても採用できる見込みが薄いことから、掲載数が減少している。
	x	-	-